

知床適正利用・エコツーリズム戦略 起草作業（羅臼）

日時：平成 23 年 1 月 20 日(木) 13:30～15:30

参加者：本間氏（旅館組合）、長谷川氏（観光船協議会（羅臼））、神尾氏（観光船協議会（斜里））、三浦氏（観光協会）、新藤氏・田澤氏（知床財団）、上野氏（林野庁）、長尾氏（北海道）、長岡氏・遠嶋氏（羅臼町）、野川・中川（環境省）

戦略自体について

- ・「戦略」は、変わらないもの。状況に応じて変えていく「戦術」とは切り分ける必要があるのではないか。
- ・「戦略」とはどのようなものか、イメージが掴めない。海外の事例などがあれば、その構成などが提示されると、共通認識が掴めるのではないか。
- ・戦略のキーワードとしては、以下のようなものが挙げられるのでは。
 - ・自然に基づく
 - ・持続
 - ・教育
 - ・意識をもった利用
 - ・地域の文化
 - ・地域の経済
 - ・自律
- ・エコツー戦略は「民」主導で策定すべき。
まず地元住民自身が知床の魅力を知り、そして地元がその魅力の伝え方を考える。
- ・地元住民に関心を寄せてもらうためには、エコツー戦略は地域の課題を解決/前進させるものでなければならない。

具体的な内容等について

- ・知床における「ワイズユース（賢明な利用）」とは何か、を記述する。
- ・知床の「価値」とは何か、を記述する。
- ・「民」主導でエコツー戦略を作っていくうえで、行政はサポートをすべき。
例：[町民は知床岬上陸可]など、地元に対して規制の緩和をし、地元住民が知床の魅力を知ることができるようにする。など
- ・両町で自然に対する文化/歴史が異なるので、両町をひとからげにして議論すべきでない。統一して議論できる部分と、分けて議論すべき部分がある。
- ・情報を共有、還元する仕組みが必要
...行政の行う調査研究結果の還元その他、住民や利用者による観察をモニタリングに活用する仕組みづくりなど。
- ・地元の「やりたいこと」を試行/検証する仕組みが必要
地元から「企画書」を出し、それに対して試行のOKを出したり、検証したりする。
枠組みは守られているか、持続可能か、好循環か等。
- ・いつでも逃げられる外部の業者などとは異なり、[持続可能]かどうかについて地元はある種の責任を負っている。「地元優先」ということを戦略でうたえないか。

